

原子力規制委員会における安全研究

原子力の安全確保に向けた技術・人材の基盤の構築

- ・最新の科学的・技術的知見に基づく規制基準の継続的改善
- ・安全研究の実施等による最新の科学的・技術的知見の蓄積
- ・原子力規制人材の確保及び育成の仕組みの確立

今後推進すべき安全研究の分野及びその実施方針 令和元年7月3日
 規制委員会の中期目標、1F事故の教訓、IAEAによる規制評価での指摘、審査や検査の経験、海外規制機関の動向等を踏まえ、今後推進すべき安全研究の分野を選定

| | | | |
|--|---|---|---|
| <p>横断的原子力安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ①外部事象 ②火災防護 ③人的・組織的要因 | <p>原子炉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ①リスク評価 ②シビアアクシデント ③熱流動・核特性 ⋮ | <p>核燃料サイクル・廃棄物</p> <ul style="list-style-type: none"> ①核燃料サイクル施設 ②放射性廃棄物 ③廃止措置・クリアランス | <p>原子力災害対策・放射線規制等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①原子力災害対策 ②放射線規則・管理 ③保障措置、核物質防護 |
|--|---|---|---|

【インプット】技術基盤グループにおける安全研究
 (人員:研究職等約170名、予算:約96億円(令和元年度))

【アクティビティ】 規制ニーズ等を考慮し策定された実施方針に基づく安全研究と調査

【アウトプット】 規制活動向上のための検討資料、学術論文、解析コード等
 (原子炉施設等の安全性に係る最新知見、審査や基準の妥当性判断のための知見、基準やガイド策定のための知見)

【アウトカム】 厳正な規制及び規制基準の継続的改善
 (職員及び組織全体の科学的・技術的専門性向上及び原子力規制を支える強固な技術基盤の構築と維持)

【政策目的】 原子力に対する確かな規制を通じて、人と環境を守る